様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　5 月　29 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006-2008
課題番号：18500240
研究課題名（和文）　自殺に関する日本とスウエーデンの比較

研究課題名（英文）　A comparative study of suicide between Japan and Sweden

研究代表者
山崎　暁子　（YAMASAKI　AKIKO）
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号:80343226

研究成果の概要：
９つの社会生活指標が日本人の自殺に与えた影響を重回帰分析で解析をおこなった。失業が男女共に自殺に有意な影響を与えた。女子の労働への参加が男子の自殺に正の関連を示した。年齢別の解析では、失業は若年、中年、高年の男子の自殺と若年の女子の自殺に有意な関連を示した。女子の労働への参加は若年と高年の男子と若年の女子とに有意な関連を示した。離婚は中年と高年の男子と若年の男女に有意な関連を示した。人口密度は中年男子と若年女子に有意な関連を示した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	１，５００，０００	３００，０００	１，８００，０００
２００７年度	１，０００，０００	３００，０００	１，３００，０００
２００８年度	１，０００，０００	３００，０００	１，３００，０００
年度			
年度			
総　計	３，５００，０００	９００，０００	４，４００，０００

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：神経科学・神経科学一般
キーワード：自殺、失業、女子労働、人口密度、神道、宗教、日本、自殺予防

１．研究開始当初の背景

自殺行動には自殺死亡と自殺未遂があり、自殺死亡者の動向については近年とみに関心が持たれ自殺予防対策への取り組みが進みつつある。しかし、自殺未遂についてはその数が自殺死亡よりも多いと推測されているにもかかわらず、その実態把握は必ずしも十分には行われていない。本研究では、このような観

点から自殺未遂と自殺死亡からなる自殺行動の実態把握に基づき、自殺の疫学的・社会的要因等を明らかにするためのデータ・ベースを構築し、その解析に基づいて自殺予防策に資する基礎的エビデンスを提供する。

２．研究の目的

本研究の目的は、自殺行動の疫学的・社会的要因調査とこれに基づく統計解析等の分析を合わせて実施することにより、自殺を企図する精神分析学的・社会心理的・社会経済的要因をこれまで以上に詳しく示すことを通じて、自殺予防策に新たな選択肢と手段を導くためのエビデンスを提供することである。

３．研究の方法

（１）９つの社会生活指標が日本人の自殺に与えた影響を重回帰分析で解析をおこなった。

（２）日本の神道の歴史と特徴を概観し、神道と自殺予防との関係についてヒアリング調査と文献研究および事例研究を行った。

４．研究成果

（１）失業が男女共に自殺に有意な影響を与えた。女子の労働への参加が男子の自殺に正の関連を示した。年齢別の解析では、失業は若年、中年、高年の男子の自殺と若年の女子の自殺に有意な関連を示した。女子の労働への参加は若年と高年の男子と若年の女子とに有意な関連を示した。離婚は中年と高年の男子と若年の男女に有意な関連を示した。人口密度は中年男子と若年女子に有意な関連を示した。

（２）自殺予防の国際比較研究においては、各国の文化的背景を知る必要がある。文化的背景には家族の助け合いの意識に係わるもの伝統文化も含まれ、これには宗教文化も影響する。この点で、我が国の神道は、仏教やキリスト教、イスラム教のような他の宗教と比較すると、戒律も聖典も存在しないにもかかわらず、多くの日本人の心の拠り所として影響を及ぼしている宗教的文化という特徴を持っている。神道に戒律や聖典がない理由は、神道が、古来、自然の恵みに感謝し、その土地で暮らす人々の共同体（例えば村や国）の由来一つ一つに関わる複数の神を祀ることから始まったからである。神道では、宗教的文化である一方、人々が訪れ、信仰する気持ちを表す場所として機能してきた全国各地にある神社がネットワークを形成することにより、宗教的組織も有する特徴を持っている。

神道には、神社の行事に象徴されるような宗教的文化と人々の心を律する規範はあるが、戒律も聖典もないため、戦前の国家神道の一時期を除いて、神道による教化は行われたことがない。むしろ、仏教伝来以降、神仏混淆に見られるような仏教との共存、儒教思想の取入れなどが起こった。戦後は、日本国憲法による信教の自由のもとで、神道は、各地にある神社が全国組織である神社本庁のもとで緩やかな繋がりを保ちながら、仏教、キリスト教、イスラム教等の他宗教と共存して、多くの日本人の心の支えとなっている。

現在、日本では、正月三日間で 300 万人が参拝する明治神宮から地域の小さな社まで神社は日本の津津浦々に存在し、その数は約 8 万社にのぼる。神仏混淆があるため、このような神社に参拝する人々と宗教法人としての教派神道に所属する人々と、その他の宗教の信者数とを合わせた総数に占める、神道系、仏教系、キリスト教系の割合はそれぞれ 50.3%、44%、1%と推定されている。このように、神道の影響を受けている日本人の割合は多いが、神道は宗教的文化であり、人々が信仰心を表して年中行事などに参加する

ため集まる神社は、教化機能を必ずしも果たすものではない。その結果、現状では、自殺予防について、神道に基づく組織的な対応があるわけではない。しかし、神道の規範には、人の命を大切にすることが含まれており、これが宗教的文化としての神社の祭りや年中行事や参拝の機会を通じて自殺予防のために組織的に活用されていく可能性は大きい。

このような観点から、平成１８年度は、日本の神道の歴史と特徴を概観し、神道における人の命の大切さの根拠を述べて、神道と自殺予防との関係について文献研究を行った。

（３）神道の起源と歴史的展開を文献研究することにより、一方で、神道の命の捉え方は自殺予防につながるものであることが確かめられ、他方で、戦前の国家神道を反省した戦後の民主憲法の下での政教分離により、神社の神官（禰宜など）が政府の補助金の入っている学校教育や地域の社会教育施設などで、祖先を敬うことから自らの命を大切にすることを軸とした自殺予防の普及に直接関与することは難しい側面もあることが明らかになった。

それでもなお、現在、宗教的色彩を除いて、学術的な研究交流や意見交換という形で、自然崇拝に基づく環境問題へ神社組織が取り組むことが始まっている。すなわち、非政治的でボランタリーな神社の取り組みの中で、自殺予防につながる神社の重要な活動が各地で始まっている。高齢者が孤立感を感じ、役割意識を失うことにより、自殺を引き起こす場合があることが知られているが、このような高齢者の自殺予防に、神社は高齢者の集まる場所になっていることで寄与している。例えば、神社の年中行事で、地域の高齢者が他の年齢層の人々と協力して行事を遂行すること、地域の介護ケアと連携して高齢者の外出を増やして生き甲斐を与える機会をより多く提供するために、境内にある会館・集会所に高齢者に集まってもらい交流する機会を設けることなどである。このような交流の機会は、高齢者の孤立化を防ぎ、見守りや聞き取りの機会にも活用することを通じて、自殺予防にますます寄与することが期待できる。

勤労者・若年者の自殺予防には、自殺を引き起こす要因を神道の生活規範に基づいて是正していくことが期待される。例えば神道にある「大御心をいただきてむつび和らぎ」などの生活規範を尊ぶことができれば、職場のパワーハラスメントは許されないことが理解され、職場における人間関係の融和を通じて自殺予防が進むと考えられる。また、この規範を尊重すれば、学校教育でも、いじめを原因とする自殺予防も進むことが期待される。

以上のように、宗教文化としての神道の歴史的展開と、そこで培われた生活規範と自殺予防との関係を探ることによって、日本の神道は、戒律や聖典がないため、命を大切にすることを教化を通じて人々に伝える点で他の宗教よりも影響力が弱いかもしれない。しかし、教化や政策を通じることがなくても、文献研究ならびに事例研究と考察によって、神道の生活規範と神道の神々を祀る神社の地域での活動には、自殺予防に大きく貢献する可能性があることが、明らかになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１　件）

A. Yamasaki, S. Araki, R. Sakai, V. Scott. Suicide mortality of young, middle-Aged and elderly males and females in Japan for the years 1953-96: time series analysis for the effects of unemployment, female labour force,

young and aged population, primary industry and population density. Industrial Health 46 (6), 541-9, 2008.
査読有り

〔図書〕(計　1　件)

Y. Kaneko, A. Yamasaki, K. Arai. Part 1. Suicide in a religious and cross-cultural perspective chapter 6: the Shinto religion and suicide in Japan in The Oxford University Press textbook in Suicidology and Suicide Prevention on the Five Continents. Edited by Danuta Wasserman and Camilla Wasserman The Oxford University Press, (accepted).

６．研究組織
(1) 研究代表者

山崎　暁子 (YAMAZAKI AKIKO)
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号８０３４３２２６

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
金子　能宏(KANEKO YOSHIHIRO)
国立社会保障・人口問題研究所　社会保障応用分析研究部長
研究者番号30224611